

津山文化

津山市文化連盟

会報

2020 / 4

第 14 号

ひらひらが文化の花を



久米文化協会 会長

榎本 真弓

今年度は平成三十一年から始まり、令和元年、令和二年と移りゆく一年でした。

令和になって初めての新年を迎えて心新たにした矢先、今地球規模で起こっている新型

コロナウイルスが猛威を振るい、目に見えない恐怖が襲っています。一日も早い終息を

願うところですが、身近なところでも生活が一変し、学校休校、事業イベント等の中止、

延期を余儀なくされている状況の中で、人々の娯楽も失われつつあります。

各文化協会におかれましても自粛されている皆様も多いのではないかと思います。暫く

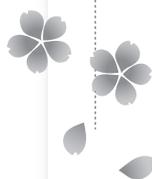
は心折れそうな日々を過ごさなければならぬこともあろうかと思いますが、文化が絶え

ることはありません。

当たりまえの一日に感謝し、これからも心豊かな文化活動を生涯学びの場として、伝統

文化を継承し、また新たな文化も創造しながら、未来へと続く道に素敵な文化の花を咲か

せていきましょよう。



津山市文化協会

平成31年度津山市文化協会総会の開催

日時 平成31年 4月20日（土）

午前10時～

場所 津山市総合福祉会館3階
中会議室

総会にて平成30年度の事業報告・決算報告と平成31年度事業計画・予算が可決されました。総会終了後の情報交換会では、大道芸文ちゃん一座によるアトラクションが行われ、傘回しや、南京玉すだれ等の芸で会場を盛り上げました。

令和元年度文化講座の開催

今年度は文化講座を3回開催しました。

「サラリーマンが建てた美術館 自分流美術館」夭折・未完の画家たちを想う

日時 令和元年 6月29日（土）

午後2時～

場所 津山市立図書館視聴覚室

講師 辻本高廣氏

（かがみの近代美術館館長）

夭折した画家たちの作品の収集・展

示を行っている講師に、彼らの作品との出会いや魅力をお話ししていただきました。



「漆塗り体験講座」

日時 令和元年11月30日（土）

午後1時～

場所 津山市中央公民館2階会議室2
講師 高月国光氏（郷原漆器の館館長）



木のスプーンに漆で色づけをする講座を開催しました。真庭市蒜山の伝統工芸品である郷原漆器の紹介や漆器の特性などの紹介の後、各自で色塗りを行いました。参加者は講師の指導の下、思い思いのデザインをスプーンに描いていました。

「からだ元気で いろいろ豊かに」

日時 令和2年2月2日（日）

午後3時～

場所 アルネ・津山4階 津山市地域交流センター

講師 榎本真弓氏

（津山よさこい踊らん会所属）

日本健康体操指導士の資格をもつ講師に、イスに座って誰でも簡単にできる体操を教えてくださいました。体だけでなく、頭も使う体操も教えてくださいました。



令和元年度文化研修会の開催

「新見美術館周辺散策」

日時 令和元年10月15日（火）

午前9時～

場所 新見美術館・新見市街地（土下座
祭り行列観覧）・山田方谷記念館

芸術文化祭の開催

日時 令和2年2月1日（土）

～2日（日）

場所 津山市地域交流センター

津山市文化協会会員による芸術文化祭を開催しました。作品展や華道展など芸術作品展に加え、ポर्ट アート & デザイン津山のコーヒースタンドの出張出店、ステージ発表や詩の朗読会など、様々な催しが行われました。また、小学生の生け花体験教室や、匂い袋講座などのワークショップも開催され、文化芸術を通じ、様々な世代の交流が生まれました。



西東三鬼の

ふるさと俳句投句函

2019年度入選作品

■ 一般の部

・三鬼来よ城山は今花吹雪
 ・きざはしの鬘跡深き落花かな
 ・声を追ひ姿を追ふて雲雀野へ
 ・初蝶を追ひこしてゆく一輛車
 ・春寒や供華の絶えざる女院塚
 ・人間も俳句も粒子寒の空
 ・里山や一本ざくらの底力
 ・単身の部屋へ戻りて花の冷え
 ・津山城東城西難祭
 ・駅おりて靴はきかえる花見かな
 ・千光寺仏の域の糸桜
 ・城下町今日より桜色となり
 ・十字の碑訪ひ来津山や花の雲
 ・藤の香や津山城址の長局
 ・四阿へ築山の風夏立てり

・花冷えの古城や今日の風が吹く
 ・その先に壊るる平和蟻の列
 ・草萌ゆる吾子生誕の声を聞く
 ・生れし家の柱なつかし柿若葉
 ・ジーンズの色はあやめの影の色
 ・溪蓀畑むらさきの風生れけり
 ・足裏に温みの残る青葉道
 ・産土の土あるところ蟻地獄
 ・街道は静止画のごと驟雨かな
 ・一休み鎌にかぶせし夏帽子
 ・夏雲や三鬼の句碑に寄りそひぬ
 ・思い出はおもちの箱と蝗獲り
 ・母の墓境界線の曼珠沙華
 ・山ほどの思い出たどる春の旅
 ・投了の黙の一礼秋深し
 ・霜払い丘の校舎の門開く

(2019年4月締め切り)

(2019年8月締め切り)

(2019年12月締め切り)

投句函運営委員会	
委員長	岸しのぶ
委員	溝口公江
	生田恵美子
	福島毅
	武本節子

岡山市 柴田 征子
 兵庫県 諏訪 次郎
 倉敷市 仁科 美代子
 岡山市 名木田 純子
 鏡野町 高野 喜久子
 早島町 綾野 静恵
 津山市 難波 澄子
 津山市 岡田 邦男
 東京都 杉山 武明
 津山市 三谷 元
 津山市 妹尾 武志
 津山市 中島 正和
 兵庫県 山崎 緑
 東京都 松浦 宗克
 岡山市 矢野 華苗

津山市 中島 正和
 津山市 岡田 邦男
 津山市 東城 達彦
 高野町 喜久子
 奈義町 内藤 恵
 兵庫県 柄川 武子
 津山市 難波 澄子
 津山市 妹尾 武志
 鏡野町 中谷 淳子
 神奈川県 安田 安兵衛
 神奈川県 小原 晋
 津山市 杉山 武明
 津山市 高木 明子
 津山市 瀬藤 みちき

津山市 妹尾 武志
 津山市 中村 けんた

特選

特選

特選

■ ジュニアの部

・鶴山の高き城垣鬮雲
 ・復元の弥生住居や木の実降る
 ・本丸や腰巻櫓夕もみじ
 ・白サギが小川の中で思案顔
 ・ふりかえる少女の胸に赤い羽根
 ・早朝の霧の中より転車台
 ・秋霖や終列車着く津山駅
 ・耳つけて冷たき石の声を聞く
 ・城下には白壁民家冬日晴
 ・冬田みち風のとどまるところなく
 ・時雨るるや軀みたりのカフェテラス
 ・こだまするスリバチ谷の出初め式
 ・しめ縄を結んで祭り深くなる
 ・初笑い若者の明日が聞こえる

・ふじの花風にそよそよされいだよ
 ・春一番風から届く鳥の詩
 ・はやおきしちよつといひことはなみつけ
 ・いしがきに昔の人のすごさしる
 ・さくらだよみんなでごはんおいしいな

(2019年4月締め切り)

(2019年8月締め切り)

(2019年12月締め切り)

岡山市 矢野 エミ子
 津山市 岡田 邦男
 津山市 高木 明子
 津山市 原 寿美江
 津山市 三谷 元
 鏡野町 高野 喜久子
 岡山市 藤田 明子
 久常 大軒
 小倉 敏子
 倉敷市 綱島 美真理
 鏡野町 中谷 淳子
 津山市 中村 森の子
 津山市 東城 達彦

総社市 橘高 沙禾子
 大阪府 徳野 すみれ
 津山市 合田 心愛
 津山市 板森 啓悟
 津山市 寺坂 奏音

岡山市 藤田 紫帆
 愛媛県 山城 まつり
 津山市 可児 夢瑠
 津山市 矢部 実希
 津山市 高橋 青風
 津山市 楠岡 暖斗
 津山市 山崎 華伶
 津山市 山本 実乃里
 津山市 結城 真由
 津山市 石井 伶央名
 津山市 菊間 深鈴
 津山市 仁村 玲哉
 津山市 落合 謙介
 津山市 石川 日向
 津山市 齊藤 莉子

・鶴山の間に顔を出す
 ・水草をゆらしておよく錦鯉
 ・かどまつがわらいの口になつて
 ・すんだ空もみじろくしゅうらくえん

今年も多くの投句をありがとうございました。津山市文化協会

2019年度投句数 (955句)
 開函以来総投句数 (22,587句)

加茂町文化協会

『芸能の集い』楽しく過ごしました

加茂文化協会の大きな行事の一つとして、三月一日に『芸能の集い』を開催しました。

昭和五十年頃には協会会員の芸能発表会として最初は小規模なものでしたが、後にカラオケ会員の方も参加し、『カラオケ・舞踊発表会』として続けられてきました。

平成二十六年には『芸能の集い』と名称を改め、出場者も延べ七十名を超える会員が、日頃の練習の成果を発表しております。

「わあ、やっぱり緊張するわ」と言え、**「大丈夫、大丈夫」**と背中をト

ントンと叩いて元気をもらって出場する人もいれば、「十分練習したけんな」と自信満々の人もおり、舞台の袖もにぎやかでした。

観覧席では、「本物の歌手みたいじゃないあ」「熟練の踊りは確かにすごいなあ」という声も聞かれ、出場者もお客様も楽しんだ半日でした。

コロナウイルス感染の恐れのため、この催しそのものもどうするかというところがあったのですが、これからも会員の練習の成果を発表する場として、又、会員同士あるいは町民の方との交流の場として続けてゆけたらと思っています。



阿波文化協会

令和元年度 阿波文化協会活動報告

三月三十日、総会を開催し決算・活動内容について報告・計画の中で新規事業として各クラブとの親睦を図ろうということになりました。

文化祭も終わった十一月に食事をはじめながら、情報交換会を開催しました。合併後はじめての事で皆さんと活動の報告等話があり、わきあいあいとても良い会となりました。

○六月九日 毎年行っています加茂町文化協会とのカラオケ交流会発表会は加茂会場でお世話になりました。

○恒例となっていますバザーも六月と十月に開催し十月は文化祭に合わせ公民館で開催しました。

準備も中々大変ですが、出品してくださる地域の方々の協力があつての事だと感謝しています。

又、毎年売上の一部は社会福祉協

議会に寄付させていただいています。合わせて衣類や帽子なども福祉協議会に利用していただき大変喜んでいただきました。

○文化祭も地域の方と一緒に作り上げることが出来ました。

○皆さん楽しみにしてくださっている、「みんなで歌おう会」七月と二月に公民館で行いました。

なつかしいあの歌・この歌、口ずさみながら楽しいひと時を過ごし、茶話会でまた話が盛り上がり楽しいひと時を過ごしました。

○地域行事の参加として「敬老のつどい」のアトラクションに演芸部でにぎやかな傘踊り・手創りのおみこしなどで会場内を練り歩き、お年寄りから大変楽しかったと喜びの声を頂きました。

○役員会も行事が終了するごとに開催しましたが、会員の皆さんから「高齢じゃ」といわれ、参加も足踏みみられますが、私達に出来る間は楽しみな行事として生涯青春の心で皆さんと一緒に活動していくことが出来たらと思っています。



春のバザー



会員情報交換会



地域文化祭▶
(落語・小ばなし)
敬老のつどい
(アトラクション)

文化祭



勝北文化協会

勝北文化協会 会長 上高 進

勝北文化協会では、年に二度大きなイベントを開催しています。

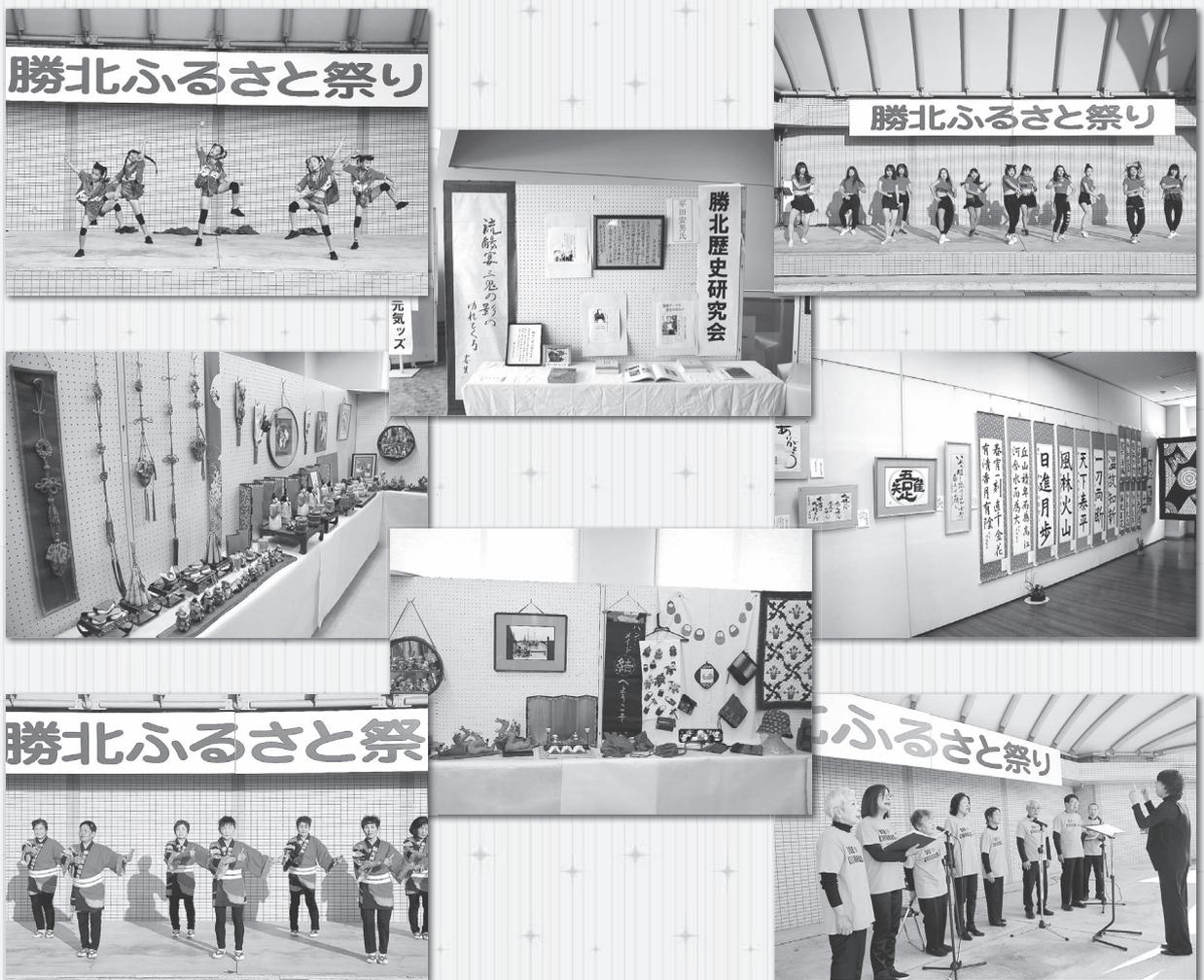
一回目は十一月に開催される勝北文化協会主催の「秋の文化祭」です。津山市勝北支所主催で行われる「勝北ふるさと祭り」と「勝北子どもステージフェスティバル」との同時開催になっており、文化に携わる方だけでなく、様々な人が集まってくださいます。今年も四歳から七十歳代の皆さんが歌や踊りで会場を盛り上げてくださいます。また、勝北公民館や勝北文化センターの屋内は文化協会会員やその他の多くの皆さんの展示品で華やかになりました。

二回目は三月の「春の文化祭」です。こちらは文化協会独自で文化の発表の場の提供をしています。今年は新型コロナウイルスの影響でやむを得ず中止にいたしました。

ただ最近では、だんだんとこのイベントの開催が大変になっているように感じています。

地域の交流の源だったはずの文化協会の活動が、現在は「都合が合えば。。」となっているように思われます。会員の減少・関心の減少・世話役の不足・意欲の不足など様々な問題点があり、文化協会の存在の意義を再確認する時が来ているのかもしれないと変

今後においては変わらないものと変わっていかねばならないものを整理して、皆が入りたい文化協会になっていくよう努力していかねばならないと思っております。



久米文化協会

五月二十一日に総会が行なわれ、二十九部会でスタートしました。主な活動です。

○研修旅行

日本三大釣鐘「方広寺」と近代文化遺産「琵琶湖疏水」等の散策でした。雨も降りましたが、ゆったりと親睦も深められました。

○久米ふるさと祭り

特設ステージで六団体の披露、館内では十六団体が力作を出展しました。

○文化連盟合同踊り発表会

久米公民館で行なわれ、今年で十一回目、十一団体が参加の中、久米は二団体の参加でした。

○スキルアップ講座

ボイストレーニングで鈴木英子先生

をお招きして、発声練習から丁寧に楽しく受講できました。

○ワークショップ

こけ玉作り体験を行いました。山本真弓先生にご指導を受け、新春用のこけ玉に挑戦しました。皆さんの出来映えは素晴らしく、好評でした。

○芸術鑑賞

堀内佳さん（全盲のシンガーソングライター）の語りと音楽で「今、しあわせに生きるために」の講演会を開催しました。

津山っ子を守り育てる市民の会との合同事業でした。

「子どもたちにも聴かせたい」との嬉しい感想もいただきました。

以上が主な活動ですが、各部会での集いの場も大切にながら、今後も自主事業の充実を図りたいと思います。



スキルアップ講座



研修旅行



芸術鑑賞



ワークショップ

令和元年度 くすのき賞

おめでとうございます。



(個人)
流郷 妙子

この度は、思いもかけず「くすのき賞」という栄えある賞をいただき、ありがとうございます。

幼少の頃より、舞う事が大好きで踊り続けて参りました私にとりまして、この上ない喜びでございます。この栄誉はひとえに皆様のご支援によるものと、あらためて感謝し心よりお礼を申し上げます。

八十四歳の現在まで、長きにわたる剣舞・民謡など舞を一筋に続けて参りました。その間、橘流の弟子も増え踊りの魅力を多くの人に伝えることができましたこと、また地域の皆様と舞う事の楽しさを共有できましたことは、何より幸せなことでした。今後も橘流を通して「舞う」ことの楽しさを伝え、「世代をつなぐ伝統文化の継承」をめざし、勝北民舞保存会のみなさんと共に、勝北に伝わる小唄や音頭を次の世代に伝えるべく、なお一層の努力を重ねる所存で

ございます。

なにとぞ引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。



これからの、『歴史と文化の町つやま』の益々の発展を祈念いたします。

令和元年度 津山市文化連盟功労賞

おめでとうございます。

民謡と踊り津山情緒保存会

この度は栄えある『功労賞』を頂き光栄に存じます。これも偏に協会皆様方のご理解と共に、大桑修前会長はじめ流派を越えて踊りの指導をして下さった諸先生方や、役員、踊り手の皆様のためまぬ努力の賜物と思っております。

平成十四年十二月に「民謡と踊り津山情緒保存会」が発足、翌十五年四

月には踊り連のデモンストラーションが津山城跡やソシオ一番街で行われました。以後、津山城築城四〇〇年記念事業や、春のさくらまつりオープン式、秋の津山まつり、岐阜県可児市との歴史友好都市縁組二十周年記念事業、伝統芸能交歓会出演等多数の出演実績を重ね多に観光振興や伝統文化の継承に尽くして来ました。現在二〇〇名の会員で踊り手は十連約一二〇名が活動しています。来年は「津山情緒保存会」結成二十周年に成りますし、この受賞を糧に頑張つてゆく所存ですので今後共、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。ありがとうございます。



後記

津山市文化連盟会報第14号の発行に当たり、お忙しい中、寄稿いただきました皆様にお礼申し上げます。

平成から令和に変わった今年度は、文化研修としまして「松江ゆつたり文化研修」を行いました。あいにくの曇り空ではありましたが、堀川遊覧船のコタツ船の中から、国宝松江城天守閣やレトロな雰囲気のあるカラコ工房、塩見縄手の武家屋敷など城下町松江の文化遺産に触れることができました。津山市文化連盟ではこれからも津山文化の発展と振興に取り組んでいきたいと思っておりますので、会員皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

(事務局)

津山文化

発行 津山市文化連盟

事務局 津山市産業文化部
文化課内

印刷 津山朝日新聞社

令和2年4月発行